

てらやまなかまるいせき
寺山中丸遺跡

秦野市No.192 遺跡

調査期間 2013年10月16日～継続中
所在地 秦野市寺山
時代 近世・奈良・平安・縄文・旧石器
調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線秦野駅から北方約3.5kmに位置する。



主な調査成果

本遺跡は金目川の東側に面した丘陵、標高約204～207mの傾斜地に立地しています。近世以降には段切りや土坑、溝状遺構といった痕跡が発見されました。奈良・平安時代には竪穴住居1軒と土師器や緑釉陶器を含む土坑が発見されています。縄文時代早期～後期には集石遺構や陥し穴状土坑が検出され、台地上の頂部付近を利用し、生活範囲としていたことが推測されます。また、後期旧石器時代～縄文時代草創期にも、有舌尖頭器や槍先形尖頭器を製作していたと思われる範囲を確認し、金目川流域における当該期の新たな発見です。



寺山中丸遺跡 全景



集石検出状況（縄文）



縄文時代草創期遺物出土状況（縄文）



有舌尖頭器出土状況（縄文）